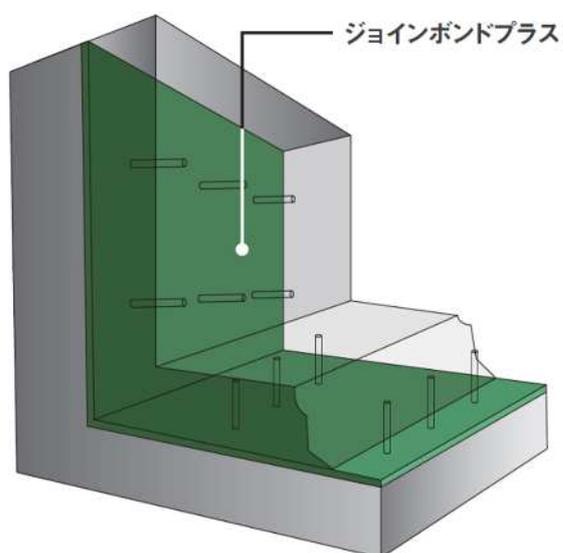


新旧コンクリート打継目接着工法

ジョインボンドプラス工法

施工要領書



 **日本ジッコウ株式会社**

ジョインボンドプラス工法は、コンクリートの増打ち等の施工現場で高圧水処理等による下地処理後に繊維補強ポリマーセメント系接着材である「ジョインボンドプラス」を塗布し、新旧コンクリートの打継ぎ界面の一体性を確保しながら作業環境の向上や省力化を可能とした工法です。

使用材料及び使用機材

使用材料

材料名	工程	標準配合	摘要範囲(外気温)
ジョインボンドプラス	新旧コンクリート打継目接着材	【18 kg/セット】 粉体 16.8 kg+混和液 1.2 kg+水 2.5 kg	施工時の気温 5℃～35℃
		【268 kg/セット】 粉体 250 kg+混和液 18 kg+水 37.2 kg	塗布後(養生)の気温 0℃～35℃
水	下地への散水(湿润)処理と練り混ぜ用として使用	水は工事現場で水道水をご準備下さい。	—

○製品荷姿



- ペール缶タイプ
18 kg/缶
(缶内に粉体 16.8 kg、
混和液 1.2 kg)



- ダンボール箱タイプ
18 kg/箱
(箱内に粉体 16.8 kg、
混和液 1.2 kg)

使用機材

機材名	仕様(推奨)
ハンドミキサー	100V 電動式 500rpm 以上 ※羽根は、アルミ製のものを使用しないでください。
リシンガン、スタックガンまたはモルタル吹付けガン ※吹付けの場合	【推奨品】 メーカー：(株)明治機械製作所、 品番：SGS-2(参考写真①)又はMB-2(参考写真②)
金コテ ※コテ塗りの場合	—
コンプレッサー	空気圧：0.7Mpa 程度、空気タンク容量(ℓ)：50 以上
耐圧ホース	ワンタッチカプラー付ホース：内径 7 mm、外径 10 mm
噴霧器、ジョロ 等	散水(湿潤)
ペール缶 等	練り混ぜ用 (ペール缶付の荷姿もあります)



ハンドミキサー



コンプレッサー



参考① SGS-2

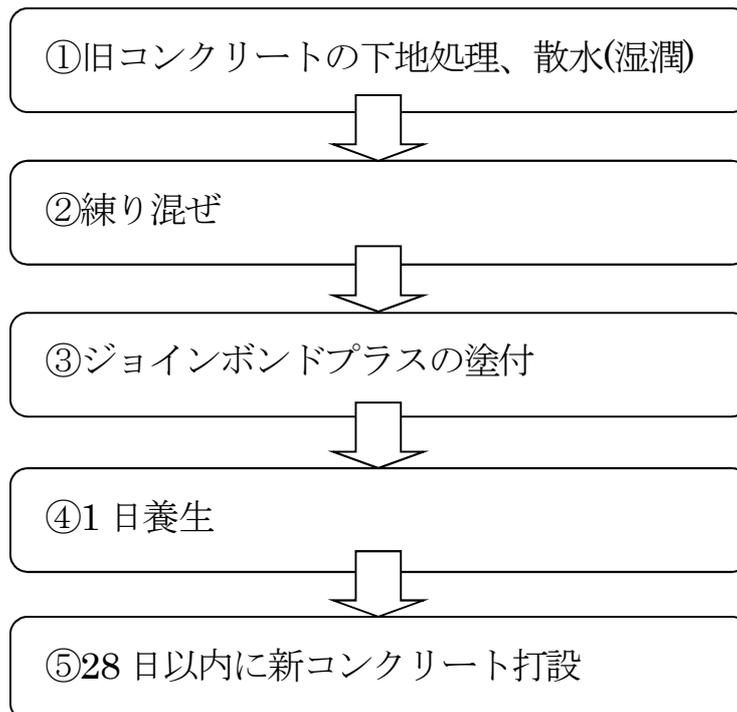


参考② MB-2

リシンガン (推奨品)

施工フロー及び施工要領

施工フロー



施工要領

①旧コンクリートの下地処理、散水(湿潤)

- 1) 旧コンクリート下地面の脆弱面・レイトンス・油分・汚れ等を高圧水・ワイヤブラシ・サンダー等で、清掃を行ってください。
※緩んだ骨材粒は、チップング等により丁寧に除去してください。
- 2) ドライアウト防止のため旧コンクリートの表面は散水(湿潤)し十分に吸水してください。
但し水溜りのないようにしてください。

②練り混ぜ

【18 kg/セットの場合】

- 1) ペール缶等の容器に「ジョインボンドプラス」の混和液 1.2 kg、水道水 2.5 kg を混合し、先によく攪拌してください。
※夏場の場合、水量は 2.5～3.0 kg の間で調整を行い、可能であれば氷で冷やした水道水をご使用ください。
- 2) 混和液の攪拌後、粉体(16.8 kg/袋)を徐々に投入しながら、ハンドミキサーで 2 分以上練り混ぜてください。
※粉体を全量投入するとダマが出来やすくなり、吹付けの際に「目詰まり」の原因となります。
※投入の順番は必ず守ってください。

【268 kg/セットの場合】

- 1) 90ℓ程度のポリ容器に「ジョインボンドプラス」の混和液 18 kg、水道水 37.2kg を混合し、先によく攪拌してください。
※1 袋ずつ計量する場合は、混和液 1.8 kg、水道水 3.72 kg を計量してから混合してください。
※1 袋ずつ計量する場合は、混和液の計量は、秤計量：1.8 kg/袋。計量カップ(容積)：1.68ℓ になります。
※夏場の場合、水量は 1 袋に対し水道水 3.72～4.46 kg の間で調整を行い、可能であれば氷で冷やした水をご使用ください。
※投入の順番は必ず守ってください。
- 2) 混和液の攪拌後、粉体 25 kg に対し混和液と水(1.8 kg+3.72 kg)を混合し、ハンドミキサーで 2 分以上練り混ぜてください。
※粉体を全量投入するとダマが出来やすくなり、吹付けの際に「目詰まり」の原因となります。
※投入の順番は必ず守ってください。

【注意事項】

- 1) 練り混ぜ後に静置するとジョインボンドプラスから混和液が浮いてくる場合がありますが、品質には影響ありません。可使時間内の場合は再度練り混ぜてご使用ください。
- 2) 塗付けまたは吹付け後にジョインボンドプラスの色が緑色になりますが品質には影響ありません。

③ジョインボンドプラスの塗布

- 1) 「ジョインボンドプラス」の標準使用量は調合物として 5.2 kg/m^2 (約 2.5 mm厚) ですが、下地の状態に応じて 2 mm～4 mmの範囲で塗布してください。
 ※下地面、施工方法、施工環境等によりある程度ロスが発生します。配筋済みの施工面や、小断面が多く点在している場合、ロス率を多めにみてください。
- 2) 「ジョインボンドプラス」の塗布
 施工は金コテか、モルタルスプレーガン、リシンガン、スタッコガン等で均一に行ってください。
 最低塗布厚 2 mm以上を確保してください。
 ※吹付けの際は、廻りに飛散しない様に養生してください。配筋への養生は必要ありません。(接着強度は上がります)
- 3) 材料の使用量は、施工済みの面積と空缶・空袋の数量確認を行い、塗布量を管理してください。

吹付け
の場合



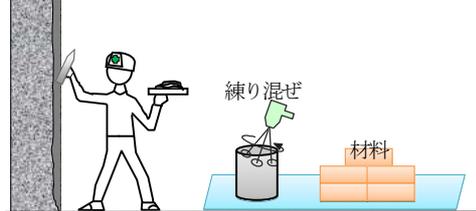
コテ塗り
の場合



ジョインボンドプラス吹付け概要図



ジョインボンドプラスコテ塗り概要図



④1日養生

- 1) ジョインボンドプラスが硬化するまでに降雨・降雪の恐れがある場合はシート掛けなどの養生を行ってください。
 ※強風や直射日光により塗り付け面の乾燥が激しい場合は、翌日以降に散水養生を行ってください。



1日養生



型枠組立

⑤28日以内に新コンクリート打設

1)新コンクリート打設は、硬化後28日以内(20℃)としてください。

※外気温30℃以上の場合は、14日以内に打設してください。

※打設までの間に泥や油分等の異物が付着しないように注意してください。

※打設面が汚れている場合は水洗いなどにより清掃してください。(歩行は可能です)

※ジョイントボンドプラス塗布後1日～28日以内(20℃)に鉄筋組立、型枠設置が可能です。



硬化後～28日以内にコンクリート打設



打設完了

標準仕様

標準配合	粉体(kg)	混和液(kg)	水(kg)	練り上がり量 (ℓ)	2.5mm厚、施工可能面積 (㎡)
18kg/セット	16.8	1.2	2.5	約9.8	約3.9
25kg/袋	25	1.8	3.72	約14.5	約5.8
268kg/セット	250	18	37.2	約145.4	約58.2
1 m ³	1,720	123	256	約1,000	約400
塗布厚さ	2～4mm	可使用時間	20℃:40分	単位容積質量	2099 kg/m ³

厚さ毎による使用材料数量と使用材料の管理基準

厚さ	単位	使用材料数量 (粉体+混和液)	調合物の塗布量 (粉体+混和液+水)
2.0mm 厚	kg/m ²	3.69	4.20
2.5mm 厚	kg/m ²	4.61	5.25
3.0mm 厚	kg/m ²	5.53	6.30
4.0mm 厚	kg/m ²	7.38	8.40

※粉体と混和液の1セット当たり 18kg

《夏期における注意事項》 ・ ・ ・ 夏場に施工される場合は、必ずご確認ください。

- 1、製品は直射日光の当たらない屋内の冷暗所に保管してください。
- 2、製品の練り混ぜる時には、なるべく低い温度の練り混ぜ水（冷水、氷水等）を用いてください。
- 3、塗り付けは、練り混ぜ後できるだけ早い時間に行ってください。
- 4、散水やシート等によって、鉄筋やコンクリートが高温になることを防止してください。なお、コンクリート表面に水がたまること無いうに過度の散水は避け、塗り付け前には、たまった水を除去してください。
- 5、可能な場合には、塗り付けの時間帯（早朝、夜間）を変更してください。
- 6、塗り付け後、表面が急激に乾燥することがある場合は、速やかに覆い等による適切な養生を行い、乾燥を抑えてください。

注意事項

- 取扱いはセメントに準じて行ってください。
- 練り混ぜ水は、必ず水道水をご使用ください。
- 破損または開封後、放置した製品は使用しないでください。
- 処理面に湧水(漏水)や欠損部(ひび割れ、表面劣化)がある場合は別途対策が必要となります。
- 製品の保管・使用は、5℃以上 35℃以下に行ってください。特に、寒冷地では混和液が凍結しない様注意が必要となります。
- 取扱いに関する詳細な注意事項は SDS をご参照ください。
- 内容物及び容器は国/都道府県/市町村の規則従って破棄してください。